

# 中央家畜保健衛生所 個別施設計画

施設類型	庁舎等
整理番号	49
施設所管課	財産活用課

令和2年7月

❀福岡県❀

# 中央家畜保健衛生所 個別施設計画

## 目次

第1章	概要	1
	(1) 対象施設の概要	
	(2) 対象施設の活用状況	
	(3) 計画期間	
	(4) 位置図等	
第2章	優先順位の考え方	3
	(1) 施設間の優先順位	
	(2) 施設内での優先順位	
第3章	個別施設の状態等	4
	(1) 個別施設の状態	
	(2) 施設の現存率	
	(3) 目標耐用年数	
第4章	対策の内容等	8
	(1) 改修・更新について	
	(2) 対策の平準化について	
	(3) 対策の内容等	

## 第1章 概要

### (1) 対象施設の概要

対 象 施 設	中央家畜保健衛生所		
所 管	総務部財産活用課		
整 理 番 号	49	竣 工 年	平成 21 年
所 在 地	福岡市東区箱崎ふ頭4丁目14番5号		
敷 地 面 積 ( m <sup>2</sup> )	4,000.00	建 築 面 積 ( m <sup>2</sup> )	1,513.00
主 構 造	R C	延 床 面 積 ( m <sup>2</sup> )	1,795.14
主 要 建 築 物	本館、車庫、解剖室棟、実験動物棟		

### (2) 対象施設の活用状況

建 物 の 名 称	本館				
棟 番 ・ 枝 番	63	—	1	竣 工 年	平成 21 年
建 築 面 積 ( m <sup>2</sup> )	1,234.55		延 床 面 積 ( m <sup>2</sup> )	1,516.69	
構 造 ・ 階 数	R C 造・地上2階				
各 階 面 積 及 び 用 途					
階別	階床面積(m <sup>2</sup> )	主 な 用 途 ( 室 名 他 )			
2F	282.14	会議・研修室、電気室			
1F	1,234.55	事務室、検査室			

中央家畜保健衛生所は平成 21 年に竣工しました。当所は、福岡市を中心とした管轄地域の家畜伝染病の発生予防やまん延防止、慢性疾病対策、家畜の病気の診断、さらに安全・安心な畜産物生産サポート、動物用医薬品や飼育動物診療施設に関する業務を行っています。

### (3) 計画期間

計画期間は令和 8 年度までとします。

(4) 位置図等

①位置図



②施設写真

全景



## 第2章 優先順位の考え方

### (1) 施設間の優先順位

当該施設は、築11年で目標使用耐用年数である65年に満たないことから、計画期間中の更新は計画していません。他の県有施設と比較して改修等を優先すべき個別事情は特にありませんが、施設を管理していく上で必要な対策を順次適切に行っていきます。

### (2) 施設内での優先順位

施設としては鉄筋コンクリート造りによる一般的な建物です。

比較的新しい建物であることから、計画的な改修は予定していませんが、必要に応じて、施設の安全や建築物としての機能を維持するための修繕を実施していきます。

### 第3章 個別施設の状態等

#### (1) 個別施設の状態

施設としては比較的良好な状態です。

#### (2) 建物全体の現存率

**現存率算定表**

施設名称	中央家畜保健衛生所		建物名称	本館				
所在地	福岡市東区箱崎ふ頭4丁目14-5		棟番・枝番	63	-	1	築年数	8年
建築年	平成21年	建築面積	1,234.55 m <sup>2</sup>	現存率	98.0	想定耐用年数	65年	
構造・階数	RC 2	延面積	1,516.69 m <sup>2</sup>					
区分	項目及び①評価比率(%)		仕様	経過年数	②各部位の現存率	①×②		
構造	躯体	40	RC	8	100.0	40.00		
	小計						<b>40.00</b>	
主要部仕上げ	屋根・防水	20	シート防水	8	100.0	20.00		
	外壁	20	タイル	8	100.0	20.00		
	小計						<b>40.00</b>	
電気設備	受変電設備	10		8	90.0	9.00		
	小計						<b>9.00</b>	
機械設備	給排水・衛生・給湯設備	10		8	90.0	9.00		
	小計						<b>9.00</b>	
合計						<b>98.00</b>		

※平成29年施設調査時のデータ

この結果、中央家畜保健衛生所の現存率は、「98.0」となります。

○建物各部位の現存率

調査部位	種類・形式等	各部位の現存率	判定項目	判定
躯体	R C	100.0	耐震診断による Is 値 <sup>1</sup>	Is 値が 1.0 以上 若しくは新耐震基準
屋根	シート防水	100.0	防水層からの漏水 又はその痕跡	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改築 10 年 未満
			防水層の劣化	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改築 10 年 未満
			経年（新設若しくは改 修後）	経年 10 年未満
外壁	タイル	100.0	外壁のはく落、浮き、 ひび割れ等の劣化	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改築 10 年 未満
			漏水の発生・痕跡の有 無	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改築 10 年 未満
内壁	石こうボードE Pタイル貼り	100.0	劣化	特に問題なし
天井	石こうボードE P	100.0		
床	タイル貼りビニ ールシート張り	100.0		
建具	アルミ	100.0	劣化	特に問題なし
			開閉作動・取付け状態	特に問題なし
電灯・電話設 備	電灯設備 電気時計 拡声設備 避雷設備 電話設備	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年以上
受変電設備	あり	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年以上
自家発電設備	—	—	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—
動力設備	動力設備方式 中央監視制御	—	経年（新設後更新後）	—

<sup>1</sup> Is 値：構造耐震指標のことであり、この指標が大きくなると建築物の耐震性能が高くなることを意味する。

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
非常用照明・ 火災報知設備	非常用照明 火災報知設備	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年5年以上
その他設備	インターホン TV共同受信 防犯設備等 表示設備	80.0	経年（新設後更新後）	経年5年以上
空気調和・換 気・排煙設備	空調方式 冷熱源機器 温熱源機器 排煙方式	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年5年以上
給排水・衛 生・給湯設備	給水方式 水槽 給湯 ガス	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年5年以上
消火設備	-	-	定期点検等の結果	-
			経年（新設後更新後）	-
エレベーター 設備	-	-	定期点検等の結果	-
			経年（新設後更新後）	-

(3) 目標耐用年数

建築年	経年	耐震性能		鉄筋 腐食度	平均 圧縮強度	中性化 深さ	目標 耐用年数
		耐震基準	補強後の I S 値				
2009	11	新	-	-	-	-	65 年

経年による部分的な劣化は見られるものの、建物に大きな問題が無いいため、中央家畜保健衛生所の目標耐用年数を原則どおり 65 年（残年数を 54 年）と設定します。

## 第4章 対策の内容等

### (1) 改修・更新について

築11年で耐用年数を65年と設定しているため、残利用年数は54年となり、計画期間内に施設の更新（建替え）を行う予定はありません。

比較的新しい建物であることから、計画期間内での改修は予定していませんが、必要に応じて、施設の安全や建築物としての機能を維持するための修繕を実施していきます。

### (2) 対策の平準化について

計画期間内に改修費用が発生する予定はありません。

### (3) 対策の内容等

以上の結果、計画期間内の取り組みは以下のとおりとなりますが、取り組みの進捗状況等を踏まえ、必要に応じて計画の見直しを行うことがあります。

		(百万円)			計
区分	項目	実施時期			
		令和2年度	令和3～5年度	令和6～8年度	
主要部仕上げ	屋根・防水、内 壁、天井、建具	0	0	0	0
電気設備	電灯・電話設備、 自家発電設備、動 力設備、非常用照 明・火災報知設 備、その他の設備	0	0	0	0
機械設備	給排水・給湯・ガ ス設備、空気調 和・排煙設備、消 火設備、エレベ ーター	0	0	0	0
その他		0	0	0	0
	計	0	0	0	0

※上記は実際の前算や事業費等とは異なります。